



埼玉医科大学 総合医療センターニュース

SAITAMA MEDICAL CENTER NEWS

NO.

45

2016
November

CONTENTS

ご紹介

神経内科	王子 聡	P-2
認定看護師紹介	看護部	P-4

連載

リハビリテーション部の診療	リハビリテーション部	P-5
---------------	------------	-----

トピックス

地域がん診療連携拠点病院市民公開講座	がん診療支援室	P-6
--------------------	---------	-----

教室

じん臓病教室	チームそらまめ	P-8
--------	---------	-----

連載

放射能と放射線	中央放射線部	P-10
---------	--------	------

お知らせ

本館3階入院用品自動販売機撤去のお知らせ	株式会社ウエルフェア	P-11
----------------------	------------	------

夜間出入口のご案内	総務課	P-11
-----------	-----	------

栄養部よりお知らせ	栄養部	P-12
-----------	-----	------

トピックス

第31回自衛消防隊消防操法競技大会	総務課	P-13
-------------------	-----	------

外来受診について／面会者へのお願い		P-14
-------------------	--	------

（社）小江戸川越観光協会



基本理念

安全で質の高い医療を提供し、
地域から信頼される医療機関を目指します。

神 経 内 科

助教 王子 聡

神経内科

神経内科が対象とする症状は、主に頭痛、めまい、ふらつき、痺れ、ふるえ、脱力、意識障害、もの忘れ、けいれんなどがあります。これらを来す疾患は、脳梗塞や脳出血などの脳血管障害、多発性硬化症、視神経脊髄炎、重症筋無力症、ギラン・バレー症候群などの免疫性神経疾患、頭痛、てんかんなどの機能性疾患、パーキンソン病やアルツハイマー病などの変性疾患、ビタミン欠乏や他の膠原病、悪性腫瘍に伴う神経疾患など多岐に渡ります。最近では新たな病態や治療に関する新たな知見、治療方法が開発され、これまで診断できなかった疾患や、治療法がなかった疾患も診断、治療ができるように日々進歩しつつあります。本稿では、医局紹介として、当科における日常診療を中心に述べたいと思います。

1. 日常診療

(1) 入院

細分化されつつある神経内科疾患のうち、当科では免疫性神経疾患、脳血管障害に特に力を入れて診療を行っております。免疫性神経疾患では、免疫グロブリン療法や、当院の人工腎臓部と密に連携しながら血液浄化療法を積極的に取り入れ、国内でも有数の治療経験、治療成績をあげています。脳血管障害では、当院ER、脳外科と連携し、脳梗塞に対する血栓溶解療法（t-PA療法）、および血管内治療をは

じめとする急性期治療を積極的に行い、県内でも有数の症例数を誇っています。

これらの疾患について急性期は当院で積極的な治療を行い、慢性期には地域の医療施設（上尾甞生病院、帯津三敬病院、霞ヶ関南病院、川越リハビリテーション病院、埼玉セントラル病院、武蔵嵐山病院、東松山医師会病院、富家病院、平成の森・川島病院、武蔵野総合病院、若葉病院、中田病院、トワーム越戸病院）と、脳卒中地域リハ連携パスを用いて積極的に連携し、転院のうえ、早期からリハビリ継続を行っています。

毎週木曜日には、全入院患者さんについてのカンファレンスと教授回診を行い、治療方針の確認を行っています。

【平成27年度の診療実績(抜粋)】

診療実績（平成27年度）

外来患者数 約18,000人

入院患者数 598人

入院患者内訳（主なもののみ記載）

- 1) 血管障害：脳梗塞 234例
- 2) 感染症：髄膜炎 20例、脳炎 33例
- 3) 炎症・脱髄疾患：多発性硬化症 64例、ギラン・バレー症候群 13例
- 4) 筋肉・神経筋接合部疾患：重症筋無力症 10例、多発筋炎 5例
- 5) 機能性疾患：てんかん 24例 など



血管内治療、血管撮影室にて



教授回診前カンファレンス、神経内科医局にて

(2)外来

当科外来には、初診、再診あわせて一日平均約80名の方が通院されております。当科の外来では、院内の他科、および地域医療機関とお互いに連携しております。神経内科疾患と考えられる症例をご紹介いただき、神経学的診察、各種検査を組み合わせ総合的に診断、治療を行っております。治療により、病状が安定したのちには、提携医療機関や自宅近くの開業医の先生に必要な内服薬の処方継続を依頼するなど、地域における包括的な診療を行っております。しかし、神経内科疾患でも、疾患の特性から当科では診察ができない場合もございますので、診察可能かどうかについてあらかじめお問い合わせいただければと思います。

また、これらの通常の診療のほかに、当科外来の特色として、重症筋無力症、慢性炎症性脱髄性多発神経炎をはじめとする免疫性神経疾患に対する免疫グロブリン静注療法や、当科看護師による多発性硬化症の再発予防薬のインターフェロン自己注射の注射指導を行い、治療が円滑にすすむように心がけております。



神経内科 外来看護師

2.臨床研究

当科では、日常診療のほかに、実臨床に直接還元できることを目的として、さまざま臨床研究を行っております。特に免疫性神経疾患、脳血管障害を対象とした病態解明や治療法の開発に力を入れており

ます。病態解明ではフローサイトメトリーを用いた末梢血リンパ球サブセット、サイトカインの解析や、自己抗体の検索などを行っています。治療法の開発について、免疫性神経疾患では血液浄化療法を積極的に取り入れた治療法の開発に力を入れています。脳血管障害ではt-PA療法、血管内治療の治療効果にかかわる因子についての臨床研究を行っています。

学会活動も精力的に行っており、毎年、多くの研究成果を発表しています。2015年9月には当科 野村教授が会長を務める 第36回日本アフェレシス学会学術大会を川越で開催し、成功裏に終わりました。

おわりに

これから診療、教育、研究それぞれについて医局一同、一層の努力してまいります。今後とも皆さまのご協力をお願い申し上げます。



神経内科スタッフ



認定看護師紹介

乳がん看護認定看護師 布谷 玲子

平成21年に乳がん看護認定看護師の資格を取得して活動を始めて7年になります。今回は、乳がん看護認定看護師の実際の活動内容と平成25年に開設した、看護専門外来をご紹介します。

1. 活動内容

乳がん看護認定看護師は、乳がん治療を受ける患者のセルフケアおよび自己決定の支援とボディイメージの変容による心理・社会的問題に対する支援を目標に活動しています。具体的には、外来でがんの告知や病状の説明が行なわれる時に同席し、医師からの説明終了後に患者さんの理解できなかった部分や不安や疑問を確認させて頂き、再度看護師からの説明をさせて頂く病状を理解するための手伝いをおこなっています。また、治療選択や術式選択など乳がん患者さんは多くの場面で自己決定を求められます。その時に、情報提供を行い一緒に考え、一緒に悩みます。さらに、乳がん患者さんは治療の場面で多くのボディイメージの変容をきたします。特に抗がん剤治療では、脱毛に伴うボディイメージの変容は避けられず、適切な時期にウィッグの情報提供が必要となります。そこで、ウィッグの特徴や購入方法などお伝えし準備のお手伝いをしています。情報提供やお手伝いは、乳がん以外の方でも対応しております。

2. 看護専門外来（がん看護）

当院では、がん分野の認定看護師（乳がん、化学療法、放射線、緩和ケア）が6名活動しています。

このがん分野の認定看護師と協力し患者さんやご家族が気軽に相談できる場所として看護専門外来を開設しました。看護専門外来は、がんと向き合って生活をしていらっしゃる患者さんにご家族の療養上の不安や悩み、困りごとなどを気軽に相談できる場所です。毎週土曜日の午後に予約制で行っています。ちょっとした不安や話せる場所を求めて利用される方もいらっしゃいます。昨年の利用件数は、42件とまだまだ少ない状態ですが、気になるがん患者さんやご家族がいらっしゃいましたら是非ご紹介下さい。予約窓口は外来化学療法室で行っています。相談内容によって担当の看護師を選択し1時間ゆっくり時間をとって対応しております。「こんなこと相談していいのかしら」と悩まずお気軽に。

これからも乳がん看護認定看護師また、がん分野の認定看護師として患者さんに寄り添える看護師でありたいと思います。



看護師募集中!!

最も環境の整った大学病院で、
地域に密着した高度な医療に貢献しませんか。

※病院見学、インターンシップ、いつでも大歓迎!! Facebookも更新しています!
詳しくはQRコードより

看護師求人ホームページ <http://www.saitama-med.ac.jp/hospital/nurse>

看護部 Facebook ページ <https://www.facebook.com/smu.nurse>

埼玉医科大学 総務部 人事課

0120-61-1181

TEL: 携帯の方 049-276-1115



リハビリテーション部の診療

リハビリテーション部 高野 敬士

現在、リハビリテーション部のスタッフは理学療法士47名、作業療法士17名、言語聴覚士9名と大学病院としては全国でも有数の規模を誇っており、リハビリテーション(リハ)依頼件数は年々増加しています。そのため、これまでのリハ室では診療を行うのに十分なスペースが確保できない、通路が狭くて車いすが行き交えない等の不都合が生じていました。この度、我々が切望していたリハ室(診療スペース)の拡大、リフォームが実現できたので紹介させていただきます。

【リハビリテーション室】

リハ室は本館の地下1階に構えており、以前はスタッフ室等であったスペースもほぼ全て診療スペースとして利用できるようになりました。リフォームにあたっては部内でワーキンググループを作り、2015年の初頭から会議をしてきました。リフォームのコンセプトとしては、『安全で明るく・診療しやすいリハ室』としました。ポイントになったのが、①入り口から通路の拡大、②作業療法室・言語聴覚療法室の充実、③心臓リハビリテーション室の充実です。

入り口・通路に関しては車いすや歩行器2台が十分に行き交えるスペースを確保し、運動療法室でも余裕をもって歩行練習が行えるようになりました。



運動療法室～入り口



作業療法室(調理練習室・バスルーム)

作業療法室はリハ室の入り口近くに移動し、北欧風のテーブルや床面で温かみのある雰囲気で様々な作業活動が行える環境になりました。また、独立した調理練習室・バスルーム・多目的トイレで実際の生活に近い環境でADL練習を行っています。

言語聴覚療法室は導線が広がり、ポップな色調になったことで明るい雰囲気となりました。また、部屋を並べて1カ所に配置したことで、それぞれの個室で落ち着いて診療が来ています。



言語聴覚療法室

心臓リハビリテーション室は、自転車エルゴメーター等のトレーニング機器や準備・整理体操が出来るスペース、運動負荷試験のスペースも確保されました。



心臓リハビリテーション室

その他にも床面を木目調に、壁面を白色系にしたことで全体が明るく、広々とした印象を与えてくれます。

最後に、診療と並行して行われた工事においては、病棟関係者の方々をはじめ多くの方にご不便をおかけしましたが、ご理解とご協力を頂きましたことを改めて感謝申し上げます。今後は新しいリハ室を十分に生かして、より良いリハを提供していきたいと考えています。一般の方も、職員の方も、ぜひ一度リハ室へ足を運んでみて下さい。

地域がん診療連携拠点病院市民公開講座

がん診療支援室 武田 吉広

平成28年7月16日（土）ウェスタ川越において、TV番組やCMでも語られることの多い禁煙をテーマに第8回地域がん診療連携拠点病院・埼玉医科大学総合医療センター市民公開講座が開催されました。

石田院長補佐の開会挨拶から始まり、第一部は呼吸器内科医の立場から植松和嗣先生（当院呼吸器内科教授）による「呼吸器疾患と喫煙」について導入講演が行われました。日常診療から感じる喫煙による呼吸機能低下や悪性新生物との関係性についての内容でした。



第二部は基調講演として、「世界にひとつだけの健康エンターテインメント～唄って禁煙、笑って卒煙、踊って救命」をテーマに循環器内科医で鶯鶯とげぬき地蔵高岩寺住職の来馬明規先生よりご講演頂きました。

内容は、まず自動体外式除細動器（AED）についての紹介がありました。AEDとは電気ショックにより、心室細動を止めて正しい心臓のリズムに戻す機器のことです。年間800万人の参拝者で賑わう鶯鶯において、町ぐるみでAEDを設置し、心臓マッサージの方法を習得する事で、多くの方々を救命出来ている事例をお話し頂きました。

次に歌や踊りを交えてニコチンの依存性や悪影響についての紹介がありました。喫煙者自身はもちろん、周囲の人々や生産者（たばこ農場で働く児童労働）にもいかに影響を及ぼしてしまうかを分かりやすくご説明頂きました。喫煙者が病気になるってしまった場合の実演や今話題の電子たばこについての考察は大変興味深くかつ恐ろしい内容であったと感じました。

最後の質問コーナーでは、会場から「仏教と禁煙の関係について」、「喫煙によるストレス解消とその嘘について」など活発な質疑応答が行われました。多くの質問に対して来馬先生が一つ一つ丁寧に答え頂きました。

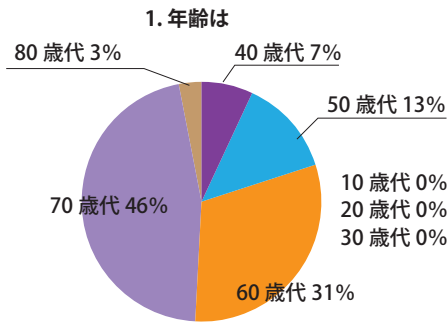
「やめたくてもやめられない」、「分かったやいけどやめられない」喫煙をただ健康に悪いと説明するだけではなく、視覚聴覚など5感に訴える方法で多面的にお話しされているのが印象に残りました。毎月22日はスワンスワン（吸わん吸わん）で禁煙の日だそうです。喫煙者の皆様、これを機に禁煙をしてみませんか？



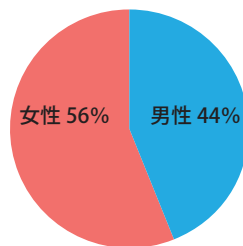
参加者は47名でした。蒸し暑い中ご参加頂きありがとうございました。次ページにてアンケートの結果を報告します。



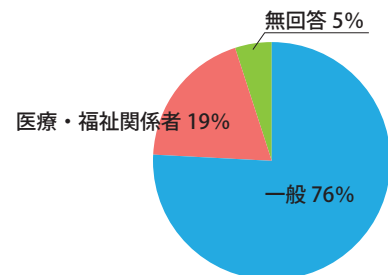
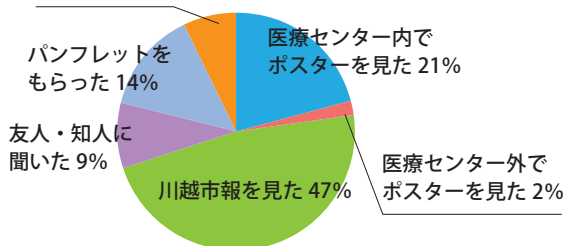
アンケート結果 回収率 91% (42 名)



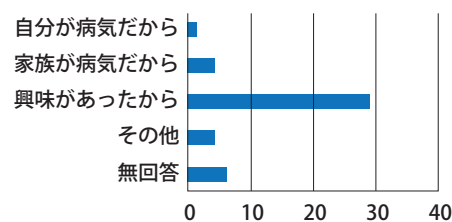
2. 性別は



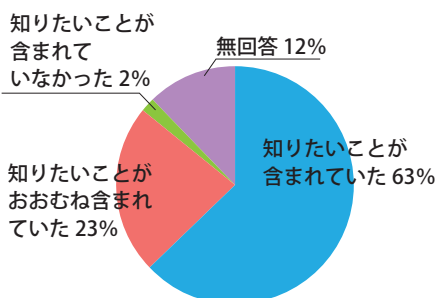
3. 職業は

4. 今回の市民講座はどこで知りましたか
その他 7%

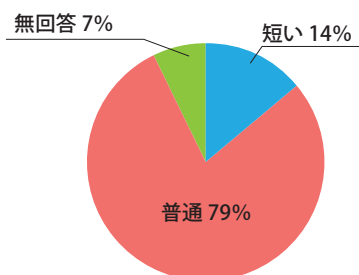
5. 参加の動機は何ですか (複数回答あり)



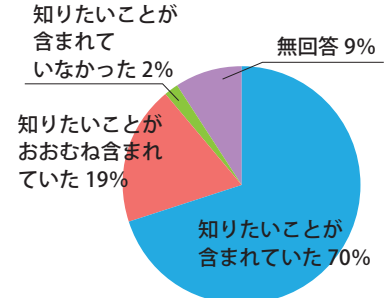
6. 導入講演の講師の講演内容はどうでしたか



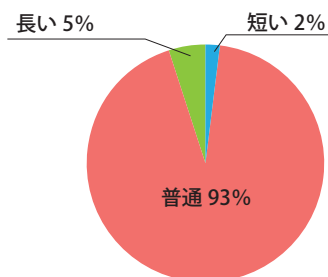
7. 導入講演の時間はどうでしたか



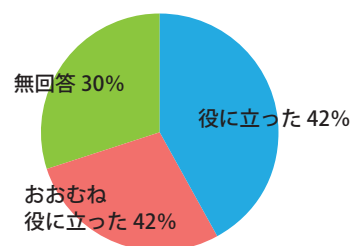
8. 基調講演の内容はどうでしたか



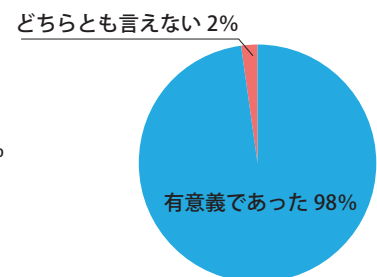
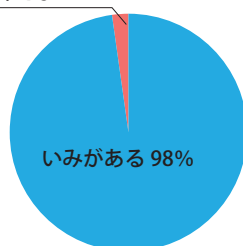
9. 基調講演の時間はどうでしたか



10. 質疑応答はどうでしたか



11. 本日の市民公開講座はどうでしたか

12. 今後、がんに関する市民公開講座を継続することは
どちらとも言えない 2%

アンケートにたくさんのご意見を頂き、ありがとうございました。がん診療支援室一同、市民公開講座を開催するにあたりより一層皆様と一緒に考えていけるような内容に取り組んで参りたいと思います。



じん臓病教室

チームそらまめ

腎臓病は、自覚症状が少ないため、気づかないまま病状が進んでしまう沈黙の臓器といわれています。腎臓病が進行すると、透析治療が必要となるため早めに治療することが重要となります。

私達は、腎臓に不安を抱えている患者様に、安全・安心・満足した治療が受けられるよう様々な支援を行っています。その一つである「じん臓病教室」の活動内容をご紹介します。

「じん臓病教室」の目的は、腎臓病と診断されてから、透析導入までの腎臓病保存期をできる限り長く保てるよう患者様の支援をすることとしています。慢性腎臓病と診断された患者様とご家族、慢性腎臓病を学びたい方、腎臓病教室開設に向けての見学研など様々な方が受講されています。

2003年に開講し、2015年までの13年間の受講者数は、延べ1424名でした。



「じん臓病教室」運営は、腎・高血圧内科医師・7階西病棟看護師・人工腎臓部看護師・薬剤師・管理栄養士・医務部職員・医療福祉相談員・臨床工学士・臨床検査技師で“チームそらまめ”を結成し活動しています。

“チームそらまめ”の由来は、じん臓はそらまめの形に似ていることと、患者さんが親しみやすく話しやすいをコンセプトに名づけました。



「じん臓病教室」では、オリジナルテキストを用い受講者の皆様に腎臓病について学んで頂きます。講義の主な内容は、病気の特徴、薬の飲み方、日常生活の過ごし方、食事内容、社会資源の活用などです。理解しにくい治療や検査などは、“チームそらまめ”が専門性を発揮し、実演やクイズを取り入れ工夫を凝らしています。

じん臓病教室は、月1回行っており3回で終了しますが、何度でも受講可能です。患者様には、早期から腎臓病の正しい知識を得て頂き、慢性腎臓病の保存期を長く維持していけるよう支援しています。じん臓病教室開催日程は下記の表を参照して下さい。

* 年間スケジュール * 月1回 第3土曜日に開催

		講師
第1回目 (5月、9月、2月)	1 腎臓病の働きと内容 2 検査について 3 食塩のとりかた	医師 臨床検査技師 管理栄養士
第2回目 (6月、10月、3月) 食事体験受付 (1食800円)	1 医療保険制度 2 日常生活の注意点 3 低たんぱく食	医療福祉相談員 看護師 管理栄養士
第3回目 (7月、11月、4月) 講義終了後、食事体験	1 食事療法のコツ 2 腎不全の治療法 3 薬の正しい飲み方	管理栄養士 看護師 薬剤師

場所：小講堂（当院5階）

時間：10:00～12:00

参加費：1600円(税込)

テキスト代を含む

医師・看護師・臨床検査技師・臨床工学士

じん臓病教室では、外来で詳しくお話できない腎臓の働きや検査の内容、日常生活の注意点などについて、医師と臨床検査技師、病棟看護師が丁寧に時間をかけて説明します。また、腎不全治療の話では、血液透析、腹膜透析の特徴と腎移植の話の他に、在宅血液透析について人工腎臓部看護師、臨床工学士が担当し情報を提供しています。



管理栄養士

腎臓病患者様の治療では、内服治療と同様に食事療法が重要となります。腎臓病の食事療法は、ご自身に合わせた十分なカロリー摂取、減塩、低たんぱく食が基本となります。じん臓病教室担当の管理栄養士の講義では患者様やご家族の方は、食事をどのように作ったら良いか悩まれることが多いため普段の食事の献立に食事療法を取り入れられるよう具体例を挙げ説明しています。また、患者様から「腎臓病食の味付けなどを体験したい」という要望があり、第3回目の講義後に食事体験を行っています。

下記の写真は腎臓病食の例と会食風景です。会食時に管理栄養士が調理の工夫点や献立内容を解説します。



腎臓病食の例



食事体験の様子

薬剤師

腎臓病の治療に使われる薬にはたくさんの種類がありますが、それぞれ大切なお薬です。患者様ご自身がどんな薬を飲んでいるのか興味を持ち、またそ

の効果がどんなものかを知ることが自己管理するうえでとても大切です。「じん臓病教室」では、薬の特徴や用法、用量、内服するタイミングなどについて説明しお薬の理解を深めて頂いています。代表的な腎臓病治療薬を撮影しスライドで実物を紹介しながら飲み方や管理の仕方などを解りやすく説明しています。また、お薬について日頃、不安に思っている疑問などに対して詳しく説明しお薬の自己管理への支援を行っています。

事務部医務課職員・医療福祉相談員

透析治療が必要になった患者様から、治療費の支払いや日常生活をどのように送れば良いかなどの不安や戸惑いを聞きます。

「じん臓病教室」では、医療制度の種類や受給資格、申請方法等を説明し、社会資源を有効に活用することを推奨しています。また、医療制度を利用した事例を紹介し、具体的な手続きについて説明します。「じん臓病教室」終了後、参加者から個別に相談や質問を受けることもあり、その場で解決したり不安を取り除いたりしています。患者様が安心して受療生活ができるよう支援しています。



“チームそらまめ”は、患者様・ご家族をサポートします

おわりに

「じん臓病教室」を開催してから13年目となりました。私たち“チームそらまめ”は、患者様が保存期をより長く維持していくために、食事や薬、日常生活について自己管理が上手に行えるよう支援しています。「じん臓病教室」の講義に使用するオリジナルテキスト作成の過程では、患者様の意見を参考に、文字の大きさ、写真、イラスト等を豊富に取り入れてきました。

今後も患者様やご家族の方々の様々な意見を取り入れ、少しでも患者様に寄り添える教室運営を目指していききたいと思います。また、「じん臓病教室」で習得した知識を患者様やご家族が日常生活で活用できるよう支援していききたいと思います。

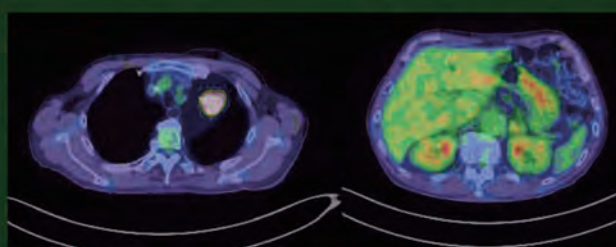
放射能と放射線

中央放射線部

PET検査

PETは、陽電子放射断層撮影という意味で、ポジトロン・エミッション・トモグラフィ(Positron Emission Tomography)の略です。

PET検査では、検査薬を人体に投与することで、全身の細胞のうち、がん細胞だけに目印をつけることができます。専用装置で体を撮像することで、がん細胞だけを見つけることができます。PETにより、従来検査に比べて、ずっと小さな早期がん細胞まで発見することが可能になります。



PET-CT画像
PET画像とCT画像を合成しています。

クイズ



何が写っているかな？

編集後記

毎年有志の診療放射線技師で小江戸川越ハーフマラソンに出場しています。エントリーした後は仕事帰りに、集ってランニングをするので運動不足の解消にもなります。マラソン当日は蔵造りの町並を眺めながら沿道の暖かい声援でいつもより早く走ることが出来ます。

照射線量について

照射線量とは放射線の強さを表す量です。

定義としては
「放射線によって単位質量(1kg)あたりの空気が、電離される電荷量(C)として表されます」

照射線量 = C/kg(クーロン/キログラム)

要約すると、照射線量が大きいということは
放射線が空気とより作用を起こす＝放射線が強い
ということになります。
雨を例に例えると、下のような考え方となります。



小雨
照射線量：小



大雨
照射線量：大

今回の照射線量はあくまで放射線の強さを表す量でした。実際の放射線被ばくについて考える際は、放射線の強さだけではなく、人体への影響を考える必要があります。次号では人体の影響に関する放射線単位について解説していきます。

本館3階入院用品自動販売機撤去のお知らせ

株式会社ウエルフェア

本館3階に設置されていた入院用品を販売している自動販売機を9月24日に撤去させていただきました。

この自動販売機は平成13年から設置されており、今年で設置より15年目を迎えたところでしたが、最近では老朽化による故障が発生し、交換用の部品も調達ができない状況となり、この度、撤去させていただく事となりました。

今後の入院用品ご購入につきましては弊社運営の本館1階のスカイドラッグ並びに管理棟1階のローソンを

是非ご利用下さい。

ご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。



夜間出入口のご案内

総務課

夜間(19:30~6:00)の出入口は高度救命救急センター1F(ER受付前)1ヶ所のみとなっており、本館出入口は夜間(19:30~6:00)閉鎖されております。ご理解ご協力の程よろしくお願いいたします。



栄養部よりお知らせ

栄養部 菊地 宏尚

《栄養部厨房リニューアルについて》

平成28年3月より、総合医療センター本館地下1階にあります栄養部厨房の全面改修工事を行っていましたが、無事、工事が終了しました。9月8日には、今後の安全を祈願し、火入れ式を実施いたしました。



9月12日より、リニューアルした新厨房で運用を開始しております。新厨房につきましては、より安全で衛生的な食事提供を可能とした施設、設備となり、今まで以上に満足度の高い食事提供を行えるようになりました。より一層、患者さん中心の栄養管理が行えるよう努めて参りたいと思います。

厨房リニューアルに伴い、工事期間中お休みしておりました有料特別メニューも11月1日より再開いたします。通常の病院食では味わえないメニューをご用意しております。是非、ご賞味ください。



※有料特別メニューの提供は医師の承認が必要となります。

《栄養指導について》

皆さん、健康のため『食事に気をつけて下さい』『食生活は大事だよ』など言われた事はありませんか？でも、どうすれば良いの？どのような事に注意すればいいの？など疑問をお持ちになる事があると思います。当院ではそのような疑問や食事療法についてお困りの方に栄養指導を実施しております。今回は、当院で行っている栄養指導についてご紹介いたします。

【集団栄養指導】

食事療法について、基本的な内容をわかりやすくご説明しております。ご希望の方は、どなたでも参加できます。

	対象	実施頻度
糖尿病教室	糖尿病患者	年12回
腎臓病教室	腎臓病患者	年9回
ママパピクラス	妊婦	年12回
かるがも教室	離乳食	年3回

※実施日、お申し込み方法については、各診療科または栄養指導室にお問い合わせください。

【個人栄養指導】

○主な疾患

糖尿病・腎臓病・心臓病・肝臓病・消化管術後・
高血圧・脂質異常症・クローン病・妊娠高血圧症等

○時間 1回：20～40分

○場所 2階栄養指導室

中央検査部
採血室

皮膚科

栄養指導室

EV

← 至 周産期センター

至 正面玄関 →



※医師の指示（栄養指導箋）のもと実施いたします。ご希望の方は担当医にお申し出ください。

第31回自衛消防隊消防操法競技大会『男子優勝』・『女子3連覇』!!

総務課（防災センター）

平成28年10月19日（水）埼玉県中央防災基地駐機場（川島町）において、第31回自衛消防隊消防操法競技大会が、川越地区消防局及び川越地区危険物防火安全協会主催により開催されました。

自衛消防隊消防操法競技大会とは、事業所における屋内・屋外消火栓設備を有効活用するため、器具の取扱い並びに操法技術の向上を図り、自衛消防組織の重要性を認識することを目的とし、操作技術はもとより、隊員の規律、動作及び迅速性を競うものです。

大会当日は、管内の19事業所、28チームが参加し、それぞれの部門にて覇を競いました。当医療センターからは、屋内消火栓男子の部、女子の部に出場しました。選手たちは、熱風が吹く8月中旬から涼風に変わった10月中旬まで計18回、毎回2時間の訓練に耐え、見事優勝することができました。

訓練期間中は、各所属の皆様のご理解とご協力をいただきましたこと、厚くお礼申し上げます。



雨天日は屋内で練習しました。

《女子チーム選手からのコメント》

看護師 山崎美乃里 『チームリーダー』

今回私は途中からの参加でしたが10人で週2回、8月から3ヶ月間練習し男女とも優勝することができました。院内での火災があった際にスムーズに消火できることを目的としていましたが、他の職種との横のつながりができ大切な経験となりました。

薬剤部 菅野歩美 『指揮者』

練習は大変でしたが、他職種の方と協力して優勝することができたので、とても嬉しかったです。消防について関心をもつきっかけになったので良かったです。

リハビリテーション部 小島早織 『1番員』

消火栓を扱うという貴重な体験をさせて頂きました。仲間と一つの目標を目指して練習でき、とても楽しかったです。ご協力頂いた皆様に感謝しています。

リハビリテーション部 後藤愛理 『2番員』

他の部署の方々と1つの目標に向かって協力し、関係を深めることができたのはとても最高の体験でした。

医務課 米倉風流 『3番員』

最初は、消火栓の使い方も知りませんでしたが、大会

の練習をしていく中で、防災への取り組みが身近に感じようになりました。また、他職種の方々と関わりが持てるようになったことは、業務に非常に良い影響をもたらしました。



大会の様子

《男子チーム選手からのコメント》

看護師 佐藤 慧 『チームリーダー』

今回私は、チームリーダーとして屋内消火栓操法の訓練に参加した。最初は大会で勝ちたいという気持ちで参加していたが、日を追うごとに手技、節度等に興味を持って取り組むことができた。今回の経験で学んだことを災害時には活かせるように、日々から同期や先輩方に発信していきたい。

医務課 上野文倫 『指揮者』

今活動で迅速な初期消火の重要性を認識する事が出来ました。また、練習を通して消火栓操法以外に他職種の仲間とチームとしての連携や協調性を学ぶ事が出来ました。

総務課 林 佑樹 『1番員』

他の部署の方々と1つの目標に向かって協力し、関係を深めることができたのはとても最高の体験でした。

中央検査部 大塚聖也 『2番員』

訓練は大変でしたが、男女で共に優勝することができとても嬉しく思います。消火栓を見るたびにこの日のことを思い出すでしょう。

薬剤部 亀田谷和将 『3番員』

屋内消火栓操法の練習、大会を通じて他職種の職員と関わる機会をいただきました。今回いただいた機会を大切に他職種とのチーム医療につなげていけたらと思います。



外来受診について

初めての方

- * 診療日 月曜～土曜
(日曜・祝日・年末年始を除く)
- * 診療受付時間 8:30 ～ 11:00
- * 診療時間 9:00 ～ 17:00

再来の方

- * 診療日 月曜～土曜
(日曜・祝日・年末年始を除く)
- * 診療受付時間 8:30 ～ 11:00
(予約の方を除く)

予約以外の11時以降の受付はありません。

初めての方、再来の方も午後まで診療を行っておりますが11時以降の受付はできません。(再来で予約のある方を除く) また、診療科や曜日によって受付できない場合もあります。

面会者へのお願い

- ・ 咳、熱などの症状ある方やお子様の面会はお遠慮ください。
- ・ 必ず病棟の看護師に面会の許可を得てください。

アクセス

電車

池袋より東武東上線・東京メトロ有楽町線30分
川越駅下車
西武新宿駅より西武新宿線60分
本川越駅下車
大宮駅よりJR埼京線20分
川越駅下車
大宮駅よりJR高崎線9分
上尾駅下車
※下車後、バスまたはタクシーでおいでください。

バス

川越駅東口より東武バス
(上尾駅西口・平方・埼玉医大・川越運動公園行き)
(25分)埼玉医大下車
JR高崎線上尾駅西口より東武バス(川越駅行き)
(20分)埼玉医大下車
市内循環バス「川越シャトル」40系統 42系統 43系統

車

関越自動車道川越インターより8km、約15分
県道51号線(川越上尾線)沿い

クリスマスコンサートのお知らせ

12月17日(土) 16:00

本館1F待合ホール



表紙写真：川越祭り

編集後記

暑さも一段落し、過ごしやすい季節になってまいりました。食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋と皆様はいかがお過ごしでしょうか。

さて、10月15日、16日に一年で最も賑わう川越市のイベント「川越まつり」が行われました。川越まつりの最大の特長は江戸「天下祭」を今に再現した山車行事として国指定重要無形民俗文化財となっています。まつり最大のみどころは、「曳っかわせ(ひっかわせ)」。向かい合う数台の山車が囃子(笛、太鼓、鉦、踊り)で競い合い、まつり人たちは提灯を高々と振り上げ歓声を上げる。とくに夜の「曳っかわせ」は最高潮の盛り上がりを見せるようです。

次号の発行は来年2月を予定しております。

編集員

埼玉医科大学総合医療センターニュース 第45号

発行年月日 平成28年11月30日
発行 埼玉医科大学総合医療センター
発行責任者 病院長 堤 晴彦
連絡先 医療センターニュース編集局(医務課内)
印刷 ヨーコー印刷(株)